

県の予算

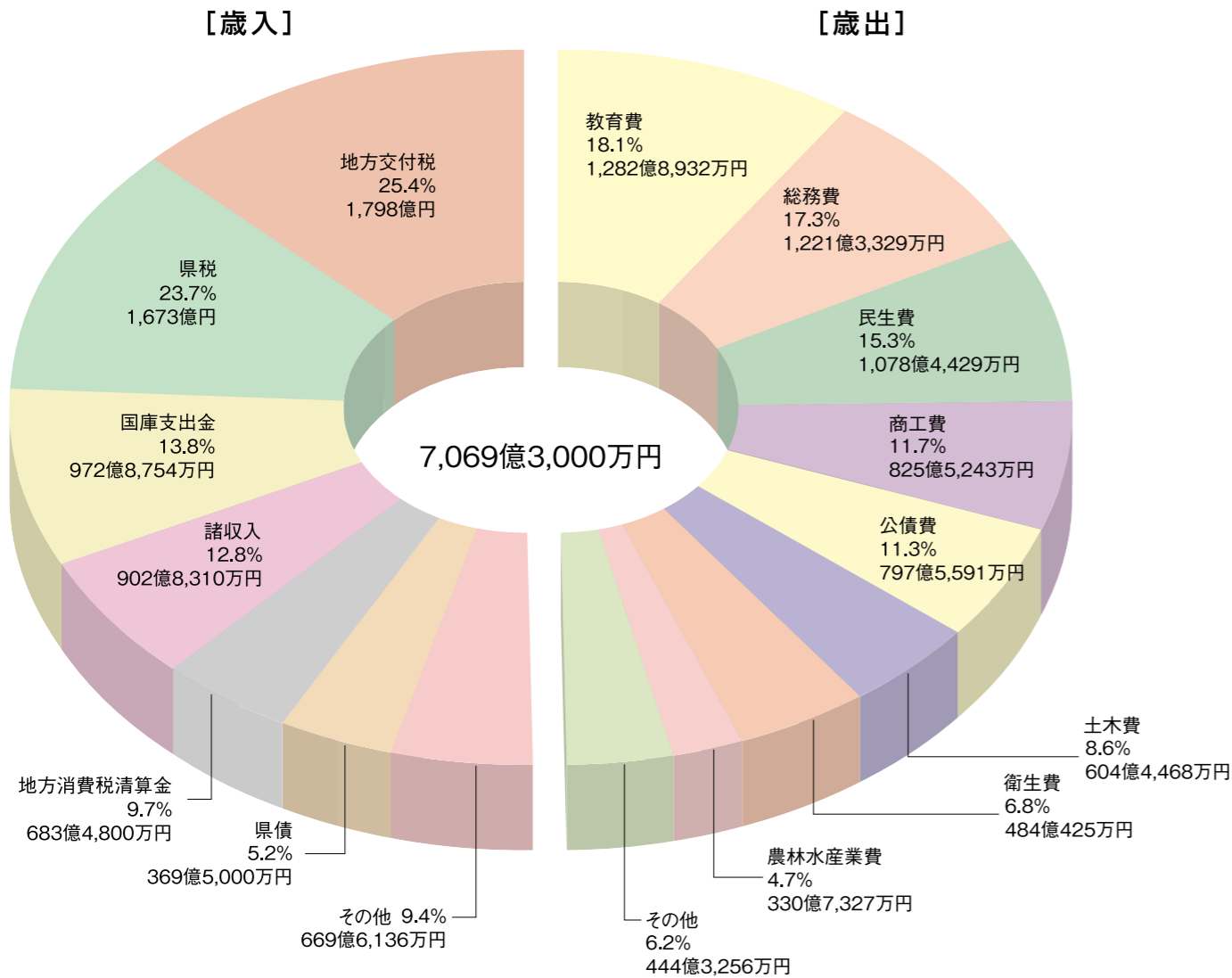
当初予算(一般会計)

令和5年度当初予算は、西日本豪雨災害からの復興と防災・減災対策、人口減少対策、地域経済の活性化の政策三本柱に、アフターコロナへの対応を含む新型コロナウイルス対策とデジタル技術の活用の二つの基軸を追加した五つを重点施策とし、これまでにない視点と発想で挑戦する積極型の予算として編成しました。新ステージの公約の実現に向け、これまで以上に成果を重視し、結果を追求する姿勢の徹底と意識改革を図ります。

特に、喫緊の課題である人口減少対策については自然減・社会減の双方に歯止めをかけるよう取り組むとともに、DXについてはデジタル人材の育成・確保を図りながら推し進めます。

また、ねりんピック開催に万全を期すとともに、医療や福祉の充実をはじめ、教育やスポーツ・文化の振興、カーボンニュートラルへの対応にも取り組めます。

令和5年度当初予算(一般会計)の歳入歳出



※地方交付税とは、地方公共団体の収入を公平にするために国から交付される国税(所得税、法人税、酒税等)の一定割合のお金
 ※国庫支出金とは、補助金、措置費等として国から県に支出されるお金
 ※県税とは、県民が納めた県民税、事業税、自動車税等のお金
 ※公債費とは、地方公共団体が借り入れたお金の元金・利子の支払い合計額

県勢のあらまし

地 勢

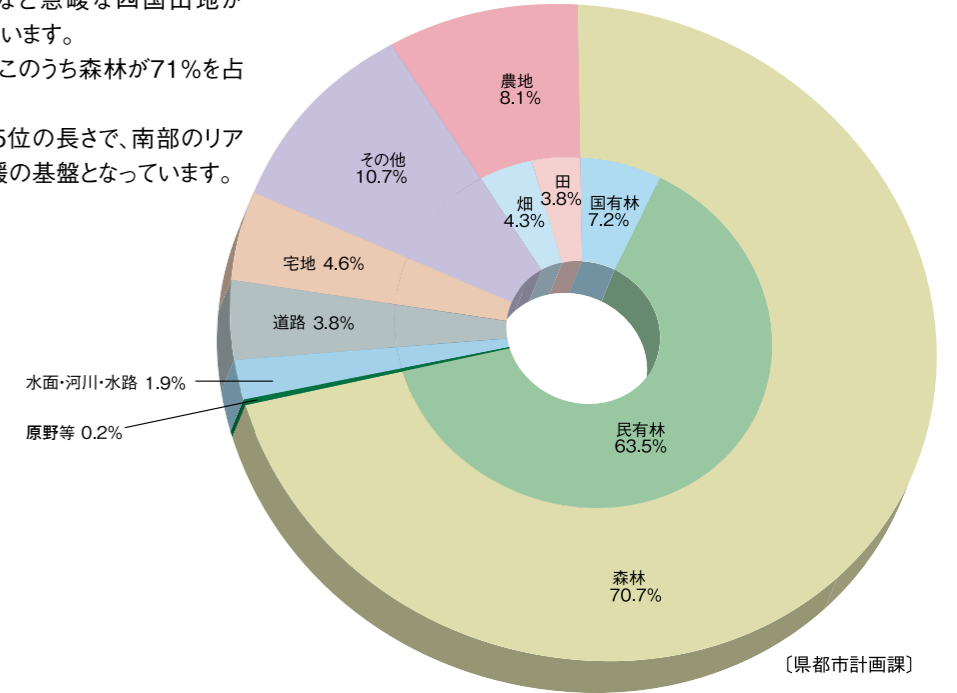
本県は、四国の北西部に位置し、北は瀬戸内海に、西は宇和海に面しており、海上には大小200余りの島々が点在しています。

地形は、県を東西に横断する中央構造線を境に、北側はなだらかで沿岸部には平野が多く、南側は西日本一の石鎚山(1,982m)や雄大な四国カルストなど急峻な四国山地が連なり、山地や盆地の多い地形となっています。

総面積は、5,676km²で全国第26位、このうち森林が71%を占めています。

また、海岸線は約1,700kmと全国第5位の長さで、南部のリアス海岸を中心に良港が多く、水産県愛媛の基盤となっています。

愛媛県土地利用現況(令和3年10月1日)



気 候

瀬戸内海沿岸部は、季節風の影響で、年間を通じて降水量が少なく、比較的温暖な瀬戸内海型気候となっています。

一方、南西部の宇和海沿岸部や山間部は、降水量も比較的多い南海型気候です。

人 口

令和2年10月1日現在の人口は、133万4,841人で、全国総人口の1.1%を占め、全国第28位です。

本県の人口は昭和60年以降、減少しており、少子高齢化が進んでいます。

総務省「令和2年国勢調査」

県名の由来

「愛媛」の名は、『古事記』(和銅5年(712年)太安万侶の編纂による。)の記述に、伊邪那岐の命と伊邪那美の命が国生みをしたとき、「伊予の国を愛比売といひ」とあり、この愛比売が「愛媛」に転化し、現在の県名になったとされています。

県のおいたち

本県は、江戸時代まで「伊予の国」と呼ばれ、西条・小松・今治・松山・大洲・新谷・吉田・宇和島の八藩に分かれていましたが、明治4年(1871年)7月14日の廃藩置県により、各藩はそれぞれ同名の県となりました。

その後、同年11月15日に、西条・小松・今治・松山の4県が合併して松山県に、大洲・新谷・吉田・宇和島の4県が合併して宇和島県となりましたが、翌5年2月9日に松山県は石鎚県、6月23日に宇和島県は神山県と改称された後、明治6年(1873年)2月20日、両県が合併して「愛媛県」が誕生しました。

現在、この2月20日は「愛媛県政発足記念日」になっています。